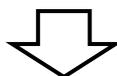


令和7年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立城西中学校	対象となる主な学年	全学年
取組事例名	「 全校生徒で創りあげる体育大会 ～ 他律から自律へ ～ 」		

◆ 生徒の実態及び取組を通して育てたい生徒像

生徒の実態	取組を通して育てたい生徒像
<p>【昨年度の取組】</p> <p>3年生や生徒会執行部を中心に、生徒会活動、学校行事ともに一定の成果をあげることができたが、生徒主体になっていない部分が多かった。また、「行事のときだけ頑張る」という、単発的な取組になっていた。</p>	<p>○競争や協働の経験を通して、健やかな体と豊かな心を育み、仲間と切磋琢磨しながら高め合うことができる集団</p> <p>○学年・学級の中心的存在としての「自覚」と「責任」を持ち、集団・個別で前向きな声かけができるリーダーの育成</p>



◆ 取組の具体的内容

取組を実施する意図及びねらい	
○リーダーの育成	【学校・学年・学級】
○共感的な人間関係の育成	【生徒⇄生徒 生徒⇄保護者 生徒⇄教職員 保護者⇄教職員】
○安全・安心な風土の醸成	【規律の徹底（身だしなみ・挨拶・時間）・温かい声かけ】
取組の流れ・創意工夫・生徒の変容等	
<p>(1) リーダー会の定期開催</p> <p>本校は、縦割集団で体育大会を実施している。縦割集団の良さを活かすためには、3年生や各学年のリーダーが憧れの存在（ロールモデル）になることが重要である。その重要性などをリーダー会で明確に示す。また、練習計画や練習形態なども全てリーダー会で決定する。</p> <p>リーダーが「自覚」と「責任」を持って取り組める組織体制の構築を図った。</p>	
<p>(2) 役割（係）の明確化</p> <p>本校では、役割の明確化を図っている。進行上の各係はもちろん、グラウンドの準備やテント設営など裏方の仕事も生徒が主体となり行っている。「自分たちの手で全てを創りあげる体育大会」にするためにも必要不可欠である。一人一役を意図的に設定することで、種目や演技以外でも活躍できる場を与えている。</p>	
	<p>(3) 共感的理解 ～傾聴と共感～</p> <p>体育大会期間中に個人面談等を行っている。その中で、生徒の思い（うれしいことや悩み）を聞き、頑張っていることは褒める。特にリーダーについては、不安な気持ちを聞き、アドバイスを行っている。</p> <p>気になる生徒については、教職員間でも連携を図るとともに、保護者とも連携を行い、指導・支援の在り方を共有している。</p>
	

◆ 成果（○）と課題及び今後に向けて（●）

【アンケート調査結果】所属している学級は温かい雰囲気がある。
【1学期実施 第1学年：96% 第2学年：90% 第3学年：89%】
【2学期実施 第1学年：97% 第2学年：95% 第3学年：96%】
○「絆づくり」の核となる学校行事を各学年・学級リーダーを中心に、充実させることができた。
○カウンセリングマインドを活用した面談を通して、生徒と教職員の信頼関係を構築することで、生徒が安心して全力で取り組むことができる温かい雰囲気づくりにつなげることができた。
○来賓や地域の方からも肯定的評価をいただき、生徒への還元することにより、自己肯定感が高まった。
●体育大会を通して育てた資質・能力を日々の学校生活でもさらに活かしていく。（教職員の共通認識）